

2015年度 日本気象学会東北支部臨時理事会 議案

日時：2015年9月8日（火）15時00分～18時00分

場所：仙台管区气象台第3会議室

開会の挨拶：長谷川支部長

出席者紹介

議 題

0. 本理事会における検討事項	2 ページ
1. 気象学会秋季大会のあり方に関する検討	
(1) 経緯	3 ページ
(2) 改善方策検討の基本方針	3 ページ
(3) 検討事項	5 ページ
2. 大会に関する中期的な検討課題	10 ページ
3. 2015年度8月までの事業報告および会計報告	
(1) 事業報告	13 ページ
(2) 会計報告	14 ページ
4. 2015年9月以降の事業に関する進捗状況	
(1) 支部気象講演会	16 ページ
(2) 支部気象研究会	16 ページ
(3) 支部だよりの発行	16 ページ
(4) 支部理事会	16 ページ
(5) 支部強化基金による活動	16 ページ
(6) 日本気象学会奨励賞などへの応募	16 ページ
5. その他	17 ページ

※別紙は一部非公開

0. 本理事会における検討事項

近年の気象学会秋季大会の口頭発表は「6分講演2分質疑が主のため、研究成果を発表して意見交換をするという会員本来の権利が守られていない」問題が生じている。これを受けて、支部ごとに秋季大会のあり方について検討を行うよう本部理事会から求められている。本理事会の検討結果は、10月上旬に開催される支部長会議で報告・議論される予定である。

(1) 喫緊の検討事項

- 運営形態
- 参加費
- 講演資格
- 大会運営の外注項目
- (外注について北海道支部からの提案)

(2) 中期的な検討事項

- 会員制度に関する検討(会費、会員区分、優遇措置等)
- 支部事務局体制(外注化、気象機関以外の組織の関与等)
- 秋季大会のあり方(年2回大会開催の是非等、より中期的な観点)
- 春季・秋季大会の開催時期等

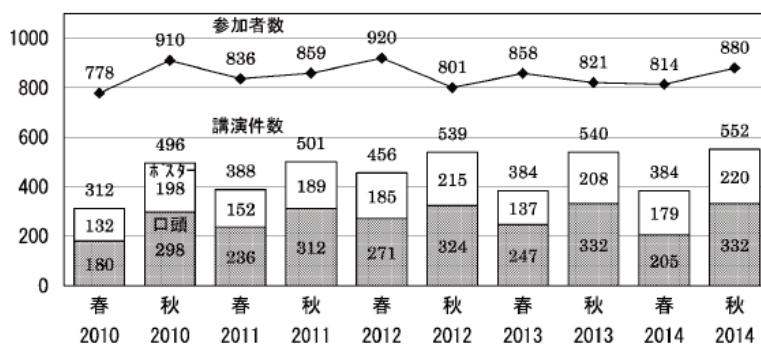
1. 気象学会秋季大会のあり方に関する検討

(1) 経緯

気象学会の大会運営については、これまでも、期間の延長、会場の増設、専門分科会・スペシャルセッションの設置等、状況に応じた変更等が行われている。最近の気象学会秋季大会では発表件数の増加（下図）等を反映し、口頭発表の時間が6～7分しか確保できない状況が生じている。学会の重要な使命の1つは、学会員に発表の場を提供することにあることから、この状況は学会の機能を損なっているのではないかとの意見が寄せられている。

第38期理事会においては、この問題を解決するために、支部長会議、理事会、講演企画委員会等で、改善方策について慎重に検討を行ってきた。

秋季大会の運営に関する具体的な改善方策については、今後の大会会場の確保等を考慮すると速やかに結論を得る必要があることから、理事会では企画調整委員会に検討ワーキンググループ（長谷川支部長が参加）を設置し、(2)項の基本方針に沿って検討を進めている。



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数
(口頭, ポスター).

(2) 改善方策検討の基本方針

第2回支部長会議（2015年3月17日）およびその後の本部理事会（2015年4月13日）で承認された基本方針は以下のとおり。

➤ 支部ごとの運営形態の導入

期間・会場数は事情に合わせて、支部で選択可能とする。

➤ 発表時間の確保

大会本来の目的である、会員が成果を発表して意見交換するという機能を確保するために、十分な議論ができる程度の時間を確保する。

➤ 大会発表に関する条件の見直し^{A)}

講演者は原則学会員（スペシャルセッション等は適用除外）とする。なお1人あたりの発表件数の制限、発表内容の事前の査読等については、現在の条件を引き続き適用する。

➤ 聴講者の参加費に関する会員・非会員の区別の導入^{B)}

大会期間の延長や会場数の増加にともなって財政的な負担増が生じることから、聴講者の参加費に会員・非会員の区別を導入する。

➤ 大会事務局業務の一部外注化

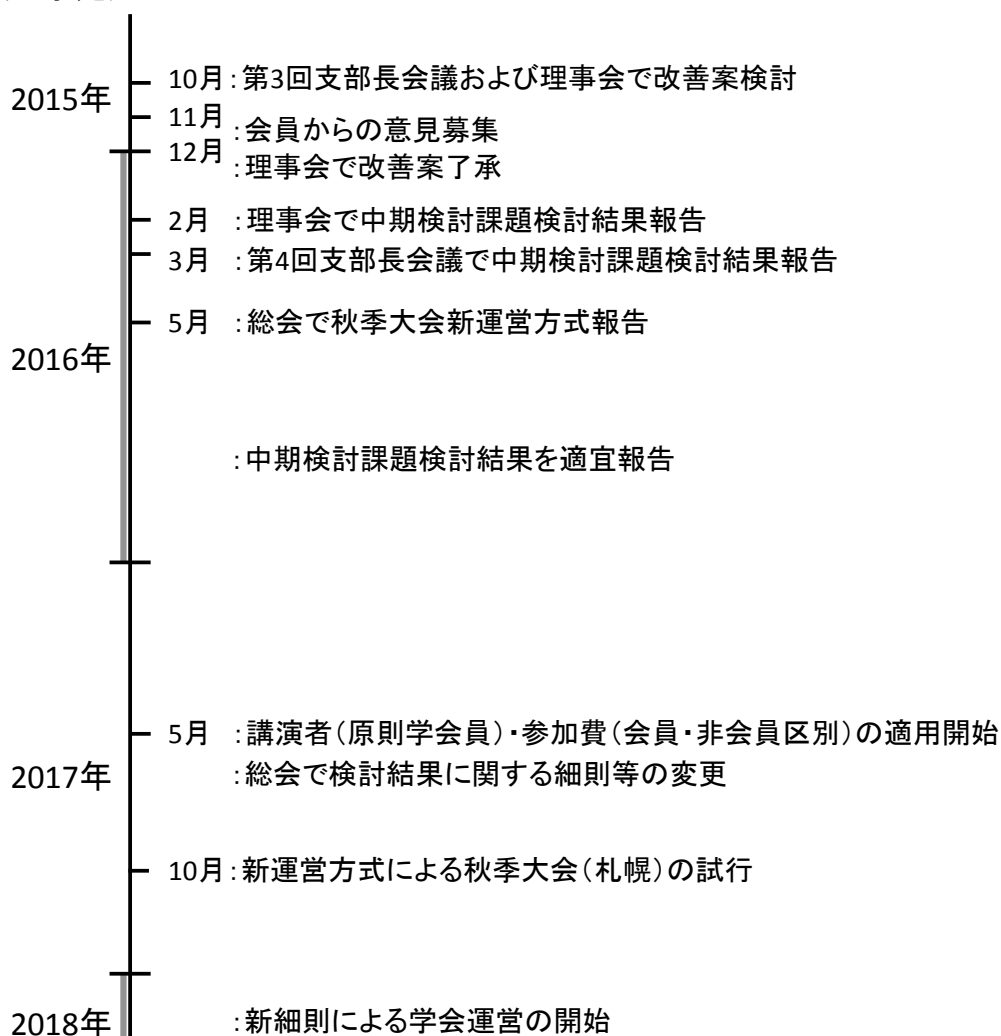
支部の大会運営業務の負担増を緩和するために、大会事務局機能の一部を外注化する。

➤ 実施時期

新しい運営方式による大会は2017年秋季大会（札幌）を試行とし、課題等が認められた場合には適宜改善をはかる。そして2018年秋季大会（仙台）からは新細則による学会運営を開始する。

また方針^{A), B)}については、2017年春季大会から実施する。

(今後の予定)



(3) 検討事項

➤ 運営形態

基本方針：期間・会場数は事情に合わせて、支部で選択可能とする

事務局では仙台国際センターを会場として、「4日4会場（または3.5日4会場¹）」の開催を提案したい。仙台国際センターによれば、2018年11月はすでに空きがないので、開催可能な期間は以下の2つの期間である。本理事会にて会場および日程を決定したい。

- ✓ 10月29日（月）～11月1日（木）
- ✓ 12月10日（月）～13日（木）

参考：秋季大会運営形態の新旧比較（詳細は別紙1参照）

経費は2015年8月時点の仙台国際センター施設料金で試算²

運営形態	口頭発表セッション数	発表時間(分)	ポスター発表セッション数	会場費
3日4会場 (従来)	20	8分 (講演6分、質疑2分)	2	220万円
4日4会場	28	11.2分	3	300万円
3日5会場	25	10分	2	290万円
3.5日4会場	24	9.6分	3	270万円

- ✓ 他に想定される候補会場
 - ◇ 宮城県民会館・勾当台会館³（2003年秋季大会の会場）
 - ◇ 宮城県民会館・仙台市民会館（1998年秋季大会の会場）
 - ◇ 東北大学（講義がある10月以降は施設利用が困難）

➤ 大会参加費

基本方針：聴講者の参加費に会員・非会員の区別を導入する

- ✓ 非会員聴講者のみの参加費増額だけで財政的な負担増を補填できるか検討したい
- ✓ 本部の企画調整担当理事による収支試算は別紙2のとおり

¹ 期間前日の2018年10月28日（日）・12月9日（日）ともに、仙台国際センターでは他学会の行事が予定されている。この学会が18時までに行事を終了すれば前日準備が可能であるが、終了しない場合は期間初日の午前中準備期間に充てざるを得ないため「3.5日開催」となる。

² 2013年開催の秋季大会（3日4会場）では会場費は約180万円だったが、消費税増税と仙台国際センター料金改定にともない約40万円増加している

³ 現在は閉館

参考①：現状の参加費（大会案内より抜粋）

・大会参加費は以下の表の通りです.

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

・講演者の種別：
 講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）
 講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

・講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）.

・シンポジウムのみに参加する場合は、参加費は無料です.

参考②：2013年秋季大会（仙台）の参加者内訳

	参加費	参加者数	（内、非会員）		計
講演者A	8,000 円	329	(24)	7%	2,632,000円
講演者B	5,000 円	168	(80)	48%	840,000円
前納聴講者	3,000 円	104	(25)	24%	312,000円
小計		601	(129)	21%	3,784,000円
当日聴講者	4,000 円	213			852,000円
合計		814			4,636,000円

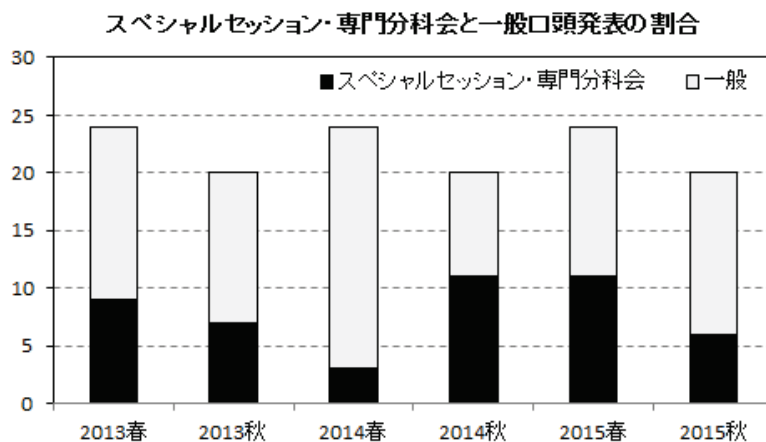
参考：発表形式毎
 oral 332 件
 poster 208 件
 重複 36 件

- ・うちよ払込者（7名分）が数えられていないため、誤差を含む
- ・当日聴講者の会員非会員の区別がつけられていない

➤ 講演資格

基本方針：原則学会員、ただしスペシャルセッション等は適用除外

- ✓ 近年、スペシャルセッション・専門分科会が、一般口頭発表と同等か上回る大会もあり（次頁図）、そのような場合に非会員の発表者が増加するおそれはないか
- ✓ 発表数の制限は必要か（たとえば口頭・ポスター各1件、またはどちらから1件）



➤ 大会運営の外注項目

基本方針：支部の大会運営業務の負担増を緩和するために、大会事務局機能の一部を外注化する

- ✓ 東北支部が想定する外部委託業務
 - ◇ 現金を管理する業務（当日受付、懇親会）の外部委託を提案する（係る経費は下記参照）
 - ◇ 2社に見積もりを依頼（項目別の経費は別紙3参照）

- ✓ 東北支部の外注項目：4日間の受付業務
 - ◇ 統括1名×4日、スタッフ6名×1日（初日）・1名×3日を想定
 - ◇ 当日受付の現金の管理⁴および実行委員会への受け渡しを依頼

	A社	B社
経費(税10%込み)	約31万円	約46万円

参考①：初日のみ受付業務を委託した場合に係る経費（3社比較）

	A社	B社	C社
経費(税10%込み)	約16万円	約30万円	約17万円

⁴ ある社の場合、現金管理は「警備会社の現金警送利用」が必須条件（経費は現時点で不明）

⁵ 諸経費には昼食費や通信費、事前打ち合わせ費が含まれる

参考②：フルセット運営に係る経費⁶

	A社	B社
経費(税10%込み)	約880万円	約930万円

※外部委託する場合、業者によっては前回大会（2017年札幌大会）を視察して運営状況を計画するため、1年前以上から業者を選定し契約することが望ましい

- ✓ 参考：北海道支部の外注項目（北海道大学 稲津准教授より）
 - ◇ 管理業務（会場設営の一部と前納参加者受付、大会参加票作成）
 - ◇ 運営業務（会場係^A：4日×4会場×1名、労務統括およびアルバイト管理^B：4日×1名、シンポジウム運営の一部）
 - ◇ 係る経費見積もりは約190万円（ただし^A,^Bの業務を委託しない場合は約120万円）

➤ 受付を簡素化するための北海道支部からの提案

北海道支部では、事前申込者には参加票や大会案内等の資料を事前送付することで、受付業務を省力化させるよう提案している（別紙4参照）。関西支部も同調し、本部へ提案しているようだ。東北支部としては北海道支部の提案を踏まえ、別紙5のように参加票や大会案内等の必要資料の作成・送付を学会本部の業務とするよう提案したい。

なお事前送付を可能とするには、参加申込Webフォーム（次頁図）の改修が必須となる。

⁶ 業者には2013年度秋季大会のプログラムを提示し、委託業務を想定してもらった

日本気象学会2015年度秋季大会

ユーザー情報入力

【* 必須入力項目】 入力例を参考にされたい方は、[こちらをクリック](#)して下さい。
ローマ字、郵便番号、Eメールアドレス、電話番号、FAX番号、会員番号、ID、パスワードについては必ず半角文字で入力して下さい。

ユーザ情報	
氏名*	姓: <input type="text"/> (例)気象 名: <input type="text"/> (例)太郎
氏名(ローマ字)*	姓: <input type="text"/> (例)Kishou 名: <input type="text"/> (例)Taro
氏名(フリガナ)*	姓: <input type="text"/> (例)キショウ 名: <input type="text"/> (例)タロウ
所属*	<input type="text"/> (例)気象研究所、東京大学大気海洋研究所など
所属略称*	<input type="text"/> 所属略称名を参考に講演者の所属略称を入力して下さい。
郵便番号*	<input type="text"/> - <input type="text"/> (例)999-9999 郵便番号検索
住所1*	<input type="text"/> (市区町村・丁・番地)
住所2(ビル名)	<input type="text"/> (ビル・マンション名)
Eメールアドレス*	<input type="text"/> <input type="button" value="確認入力"/>
電話番号*	<input type="text"/> (例)99-999-9999
FAX	<input type="text"/> (例)99-999-9999
会員番号*	<input type="text"/> 非会員の場合は、「99999」と入力して下さい。
登録者区分*	<input type="radio"/> 一般 <input type="radio"/> 学生
ID*	<input type="text"/> <ul style="list-style-type: none"> ・半角英数字を組み合わせ6桁固定で入力して下さい。 ・入力したIDは、参加申込等の認証用に使われますので、控えを取って大切に保管してください。
パスワード*	<input type="text"/> <input type="button" value="確認入力"/> <ul style="list-style-type: none"> ・半角英数字を組み合わせ8桁固定で入力して下さい。 申込確認・修正時に必要ですので控えを取って大切に保管して下さい。

2015年秋季大会から改善

この欄も必須入力項目になれば
受付票など事前発送できる

Copyright © 2007-2015 JIB Communications, Inc. All rights reserved.

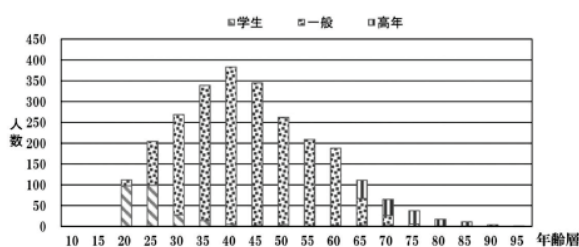
➤ その他

2. 大会に関する中期的な検討課題

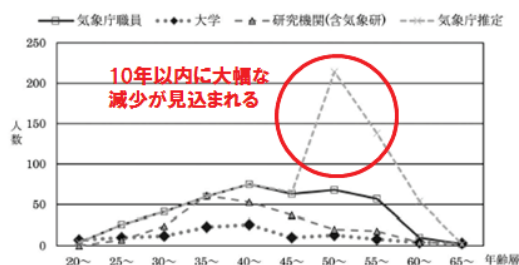
- ▶ 会員制度に関する検討（会費、会員区分、優遇措置等）
 - ✓ これまでの各支部理事会や理事長会議の議論内容
 - ◇ 学会員であることのメリットが見えないことが大きな問題。会員専用ウェブページを作り、会員に役に立つサービスを提供できるか検討中。
 - ◇ 中学・高校の理科の先生を対象に、気象庁のデータ解析ソフトを使用できるコンソーシアム等を検討してはどうか。理科クラブ・気象クラブの生徒たちが使用できるものを作れば、先生が学会に入るメリットになるのでは。
 - ◇ 気象庁のデータやツールが学会経由で入手できれば、予報士も学会に入会するようになるのではないか
 - ◇ 予報士会と学会の両方に加入する場合の割引制度、气象台退職者に対する割引制度、ジュニア会員（無料）制度等の検討
 - ◇ 学校の先生、理科の先生（特にSSHの理科の先生）、そういう人たちに積極的に割引制度の特典。さらに中学校や高校の理科クラブなどを単位とし、会費を優遇した団体会員制度を設ける。
 - ◇ 予報士資格取得に向けたサポートの実施
 - ◇ 支部単位で「若手会」のような場を設け、大学の若手研究者（学生を含む）と气象台の若手職員の交流機会を確保する
 - ◇ 学会活動として予報実務に関連する部分を強化。大きな気象イベントのレビューの際に、予報士や大学の関係者が参加できる場を作る。
 - ◇ 会員になることにより、写真の投稿など、会員が情報発信できるようなメリットを示す
 - ◇ 学会発表または参加申込時に気象学会学生会員となる場合、1年目の学会費を無料とする。または学生会員の参加費を下げる（たとえば発表者2,000円、聴講のみ1,000円など）。
 - ◇ 学生会員は、夏季大学など気象学会主催の有料行事への無料で参加できる権利を付与させる
- ✓ 東北支部の検討事項

- ▶ 支部事務局体制（外注化、気象機関以外の組織の関与等）
 - ✓ これまでの各支部理事会や理事長会議の議論内容
 - ◇ 気象台職員（特に若手）の学会離れが近年顕著であり、気象台側の有償・無償の負担は限界に達している
 - ◇ 気象台職員の会員数は50代前半にピークがあり、10年後には会員数の大幅な減少が見込まれる（下図）。一方、研究者は30～40代にかなりの数の会員がいる。事務局運営を気象台から、大学・研究機関への移管を視野に入れる必要がある。
 - ◇ 北海道支部は、北海道大学主導で事務局を運営しており、事務作業の一部を外部委託しているとのこと

年齢層別・会員区分別の個人会員構成



年齢層別・所属機関別の会員



- ✓ 東北支部の検討事項

- ▶ 秋季大会のあり方（年2回大会開催の是非等、より中期的な観点）
 - ✓ これまでの各支部理事会や理事長会議の議論内容
 - ◇ 春は日本地球惑星科学連合大会（JpGU）に統合し、AMSのように年1回の開催にしてはどうか。秋季大会の運営は、春季大会を運営している本部に移管。
 - ◇ 地方大会を開催するメリットとしては、その地方所属会員の刺激となることや修士課程2年の学生にとって秋季大会に発表することが目標のひとつとなっているようだ
 - ◇ 一般市民のアウトリーチとなるように土日開催も検討
 - ◇ 講演者数を減らすために、スペシャルセッションのみとする

- ✓ 東北支部の検討事項

▶ 春季・秋季大会の開催時期等

✓ これまでの各支部理事会や理事長会議の議論内容

- ◇ 春は、日本地球惑星科学連合大会と時期が重複しないようにすることが望ましい（統合するのも一案）。3-4月は気象台職員の異動期となるため、開催は困難。
- ◇ 学生会員の参加を要請しやすい、大学の夏季休暇期間に開催することも一案。ただし西日本では台風や集中豪雨などの気象災害が発生しやすい時期であり、特に台風による交通機関の乱れ等で開催自体が危ぶまれるおそれもある。
- ◇ 平穏な時期とすると春期休暇期間付近か、ただし前述のように異動期でマンパワーが不足するおそれがある
- ◇ 研究機関や気象庁職員の学会員の大幅な増加は今後見込めない。これまで入会の少なかった分野の方々が気象学会に興味を持ち、入会しやすいようアウトリーチが行いやすい土日や祝日を含んだ日程構成を検討すべきでは。

✓ 東北支部の検討事項

3. 2015年度8月までの事業報告および会計報告

(1) 事業報告

1) 東北支部だより (担当: 青木理事)

今年度よりレイアウト・発送を外部委託(ハリウコミュニケーションズ)。

■第81号 (2015年8月発行)

- ・ 支部長就任挨拶: 長谷川 直之氏 (日本気象学会東北支部長)
- ・ 寄稿「大気球を用いたインドネシア上空の熱帯大気観測」
: 菅原 敏氏 (宮城教育大学教授)
- ・ 第5回気象サイエンスカフェ東北
: 岩渕 功氏 (日本気象予報士会東北支部)
- ・ 平成26年度気象講演会報告
: 高橋 清利氏 (福島地方気象台長 (現・長野地方気象台長))
- ・ 2014年度日本気象学会東北支部第2回理事会 議事抄録
- ・ 2015年度日本気象学会東北支部第1回理事会 議事抄録
- ・ 東北支部「気象研究会」の開催案内
- ・ 第6回気象サイエンスカフェ東北のご案内

2) 支部理事会

- ・ 第1回 (2015年4月24日、仙台管区気象台第3会議室)

(2) 会計報告

[支部一般会計] (2015年4月1日～2015年9月7日)

	予算額	決算額	差異
I 収入の部			
事業活動収入			
本部交付金	558,800円	*1558,800円	0円
前期繰越金	314,815円	314,815円	0円
事業収入(広告料等)	0円	0円	0円
雑収入			
預金利息	50円	0円	△50円
事業活動収入計(1)	873,665円	873,615円	△50円
II 支出の部			
事業活動支出			
事業費支出			
支部気象講演会	250,000円	0円	250,000円
支部気象研究会	100,000円	0円	100,000円
支部だより	230,000円	96,613円	133,387円
ホームページ運営費	15,000円	15,000円	0円
管理費支出			
支部理事会	85,000円	26,067円	58,933円
支部役員選挙	20,000円	0円	20,000円
事務費	150,000円	153,523円	△3,523円
事業活動支出計(2)	850,000円	180,550円	669,450円
III 予備費支出			
予備費支出	23,665円	0円	23,665円
予備費支出計(3)	23,665円	0円	23,665円
当期収支(A)=(1)-(2)-(3)		693,065円	
次期繰越額(A)	0円	693,065円	

※マイナスの金額には、△印を付した。

*1 本部交付金は、支部会員174名×1,200円+35万円。

〔支部強化基金による活動会計〕（気象サイエンスカフェ東北）

	予算額	決算額	差異
I 収入の部			
事業活動収入			
本部交付金	82,000 円	82,000 円	0 円
気象予報士会東北支部分担金	10,000 円	0 円	0 円
事業収入（広告料等）	0 円	0 円	0 円
雑収入	0 円	0 円	0 円
事業活動収入計(1)	92,000 円	82,000 円	△10,000 円
II 支出の部			
事業活動支出			
事業費支出			
資料印刷費	22,000 円	0 円	22,000 円
会場費 開催費	15,000 円	0 円	15,000 円
講師謝金	10,000 円	0 円	10,000 円
事務費	10,000 円	0 円	10,000 円
役務費・交通費	35,000 円	0 円	35,000 円
事業活動支出計(2)	92,000 円	0 円	92,000 円
当期収支差額=(1)-(2)	0 円	82,000 円	82,000 円

※マイナスの金額には、△印を付した。

4. 2015年度9月以降の事業に関する進捗状況

(1) 支部気象講演会 (担当：境田理事)

(2) 支部気象研究会 (担当：渡辺理事)

- 2015年12月7～8日の2日間に仙台第3合同庁舎大会議室にて開催予定
- 一部、気象台地区調査研究会との共催
- 詳細は別紙6参照

(3) 支部だよりの発行 (担当：青木理事)

➤ 第82号を2016年1月頃に発行予定

- ✓ 話題提供 (渡辺理事)
- ✓ 第6回気象サイエンスカフェ東北の開催報告 (気象予報士会)
- ✓ 支部気象研究会の開催報告 (事務局)
- ✓ 臨時理事会の議事録 (事務局)
- ✓ 支部気象講演会の開催案内
- ✓ 第30期選挙告示
- ✓ その他

(4) 支部理事会

- 第2回理事会 (第4回支部長会議前の2016年2月中旬～下旬を目処)

(5) 支部強化基金による活動 (担当：杉山理事)

- 2015年11月14日 (土) 13時30分より、仙台第3合同庁舎2階大会議室にて開催予定
- テーマ：もし地球が立方体だったら (名越地方理事)

(6) 日本気象学会奨励賞などへの応募 (担当：野村理事)

- 2015年度の奨励賞・堀内賞・正野賞・山本賞の推薦期限は6月末であり、推薦者はいませんでした。日本気象学会賞・藤原賞・岸保賞の推薦者がいる場合、2015年12月までに野村理事または事務局までご連絡ください。

5. その他

(1) 東北支部会員数（個人会員）

2015年7月7日現在

県名	会員数	2015.04
青森県	21名	24名
岩手県	15名	17名
秋田県	17名	15名
山形県	15名	15名
宮城県	89名	82名
福島県	22名	21名
合計	179名	174名

5名増

(2) 海の観測に関するアウトリーチイベントの共催

- ▶ 須賀 利雄氏（東北大学理学研究科教授）主催の、学校教員等を対象としたアウトリーチイベントに気象学会も共催として協力予定
- ▶ アルゴ・ディレクターのHoward Freeland博士が来仙する2016年3月26日（土）に東北大学理学部青葉サイエンスホールで開催予定

(3) 口座の変更

- ▶ 2015年7月8日にゆうちょ銀行の口座を開設
- ▶ 従来利用していた七十七銀行の口座は、秋季大会の会計に利用予定

(4) 旅費等について

交通費については

青森は 21,000 円 [10,500 円×2]

弘前は 22,300 円 [11,110 円×2]

秋田は 20,100 円 [10,030 円×2]

盛岡は 12,200 円 [6,090 円×2]

山形は 2,100 円 [900 円×2+140 円×2]

福島は 2,600 円 [1,280 円×2]

仙台、岩沼は1,000 円をお願いします。

※100 円未満の端数は切り上げています。

2018 年気象学会秋季大会の会場費概算

仙台国際センターで開催する場合の、日程別の概算を以下に示す。

(1) 4日4会場

口頭発表:28セッション、ポスター:3セッション

		A会場	B会場	C会場	D会場
1日目	午前	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
	午後	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
		ポスターセッション [†]			
2日目	午前	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
	午後1	山本正野論文賞・岡田賞・奨励賞授与			
	午後2	山本正野論文賞・岡田賞受賞記念講演			
	午後3	シンポジウム			
	夜	懇親会			
3日目	午前	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
	午後	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
		ポスターセッション [†]			
4日目	午前	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
		ポスターセッション			
	午後	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表

ポスターセッション開催時刻は午前と午後の口頭発表の間となる場合も

約 300 万円

利用施設は 2013 年秋季大会と同様、会議棟（大ホール、橘、萩、桜 1、桜 2、白樫 1、小会議室 4、小会議室 5）を想定。なお仮予約している期間の前日まで別の学会の全国大会が開催されており、準備期間が取れない場合は 4 日間連続の開催はできない。

(2) 3日5会場

口頭発表:25セッション、ポスター:2セッション

		A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
1日目	午前	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
	午後	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
		ポスターセッション				
2日目	午前	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
	午後1	山本正野論文賞・岡田賞・奨励賞授与				
	午後2	山本正野論文賞・岡田賞受賞記念講演				
	午後3	シンポジウム				
	夜	懇親会				
3日目	午前	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
		ポスターセッション				
	午後	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表

約 290 万円

利用施設は会議棟（大ホール、橘、萩、桜1、桜2、白樺1、小会議室4、小会議室5）および展示棟（展示室1）を想定。展示室1の利用料金は1時間あたり26,000円と会議棟に比べて割高である。5会場にする場合、東北大学の萩ホールとの併用も候補にあげられる（その場合の経費は現時点で不明）。

(3) 3.5日4会場

口頭発表:24セッション、ポスター:3セッション

		A会場	B会場	C会場	D会場
1日目	午前	設営準備			
	午後	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
		ポスターセッション [†]			
2日目	午前	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
	午後1	山本正野論文賞・岡田賞・奨励賞授与			
	午後2	山本正野論文賞・岡田賞受賞記念講演			
	午後3	シンポジウム			
	夜	懇親会			
3日目	午前	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
	午後	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
		ポスターセッション [†]			
4日目	午前	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表
		ポスターセッション			
	午後	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表

ポスターセッション開催時刻は午前と午後の口頭発表の間となる場合も

約 270 万円

利用施設は(1)と同様、会議棟(大ホール、橘、萩、桜1、桜2、白樺1、小会議室4、小会議室5)を想定。日程案(1)の準備期間が取れない場合の代替案として提案したい。

補足

①消費税増税および②施設利用料改定があったため、仮に2013年秋季大会と同じ日程(3日4会場)で開催したとしても経費は約40万円高くなっていることに留意(2013年:約180万円→2018年:約220万円)。

平成 27 年 9 月 8 日
日本気象学会東北支部

日本気象学会全国大会の受付作業を省力化するために

学会本部に依頼する事項

提案内容

日本気象学会全国大会における受付作業を省力化するため、学会本部にて事前申込者へ参加票や大会案内等の資料を大会開催前に送付していただきたい。あわせて参加票と大会案内の作成も依頼したい。

提案理由と期待される効果

会員数や発表件数の増加にともない、全国大会にて、毎回、初日午前の受付で大きな混乱を引き起こしている。事前申込者に参加票等の必要資料を事前送付すれば、この事態は緩和し、支部の負担業務を軽減することが期待できる。

また従来、大会実行委員が担当している参加票や大会案内の作成を、本部の担当業務としていただきたい。上記資料は定型の様式で作成可能であり、担当窓口を一括にすることで作業の効率化や技術の蓄積につながる。さらに資料作成や配送の各業者と複数年契約をすることで、経費削減も期待できる。

以上の提案事項の導入により、年 2 回実施される全国大会の大会実行委員の労力を大きく減ずることが期待できる。東北支部としては、新運営方式が試行される平成 29 年度の全国大会までに導入されることを強くお願いしたい。

平成27年9月8日
東北支部事務局

仙台管区气象台東北地方調査研究会との共催について

平成27年度の日本気象学会東北支部気象研究会は、仙台管区气象台東北地方調査研究会を共催で行うこととしたい。

1 開催日時

平成27年12月 7～8日の2日間を予定。

(案1、1日目が合同発表会)

1日目：10：30～17：30（20件）、懇親会18：30～（2時間程度）

2日目：10：00～15：30（15件）

(案2、2日目が合同発表会)

1日目：13：30～17：30（15件）

2日目：10：30～17：30（20件）、懇親会18：30～（2時間程度）

2 想定事項

- ・場所は仙台第3合同庁舎2階大会議室。
- ・発表件数は35件程度（内訳は气象台30件、学会5件）。
- ・1件の発表時間は15分程度（講演12分、質疑3分）。
- ・气象台・学会の共通するテーマについての講演は合同発表会に位置づけ、いずれかの1日に集中するようプログラムを考慮する。
- ・支部長挨拶は1日目の開会時。
- ・气象台気象防災部長講評は2日目の閉会時。
- ・懇親会会場は气象台食堂、会費は2,500円程度（当日徴収）。
- ・气象台発表者の旅費は例年通り一般会計から支弁。
- ・学会東北支部では会員向けに交通費の一部補助を計画している。

3 参考

数字は管内各地区の発表件数の合計、カッコ内数字は東北地方調査研究会での発表件数

	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21
地方		86(28)	86(30)	74(25)	58(26)	90(30)	94(30)

数字は支部研究会の発表件数、カッコ内数字はうち气象台の発表件数

支部		7(2)	---	7(2)	8(2)	9(3)	11(4)
----	--	------	-----	------	------	------	-------

(案)

東北支部「気象研究会」の開催案内と講演募集

日本気象学会東北支部は、2015年度東北支部気象研究会を、仙台管区気象台内調査研究会と共催で次のとおり開催します。多数の参加をお願いいたします。

1. 開催日時：2015年12月7日（月） 10時30分～17時30分
2. 会場：仙台第3合同庁舎 2F大会議室 仙台市宮城野区五輪1-3-15
<http://www.jma-net.go.jp/sendai/infomation/chizu.html>
3. 開催要領：通常の研究発表の形式で行う予定
発表時間は質疑応答を含み15分程度
4. 参加費：無料
5. 講演申し込み方法
題目、発表者名（連名の場合は講演者に○印を付ける）、所属機関名、代表者の連絡先（住所、電話、FAX、E-mail）、200字以内の要旨、OHP・プロジェクター・パソコン等の使用希望の有無、を郵送・FAX・メールで送付願います。なお、メールによるお申し込みに対しては1週間以内に返信メールを差し上げます。
なお、気象業務、研究を本務としない会員の発表者には、気象学会東北支部から交通費の一部補助をいたしますので、事務局までお問い合わせください。学部生・院生の会員も補助対象としますが、研究費等から旅費支出できる場合はそちらを優先して下さい。
6. 講演申し込み期日：2015年11月13日（金）
7. 講演申し込み先：日本気象学会東北支部事務局
〒983-0842
仙台市宮城野区五輪1-3-15 仙台第3合同庁舎
仙台管区気象台気象防災部防災調査課気付
気象学会東北支部事務局 斎藤篤思
TEL 022-297-8160 FAX 022-297-5615
E-mail: tohoku-admin@tohoku.metsoc.jp
8. 講演資料の提出期限：2015年11月20日（金）
講演資料は、用紙 A4 2枚程度

詳しくは東北支部ホームページをご覧ください。

(<http://tohoku.metsoc.jp/workshop/workshop.html>)

その他、ご不明の点は事務局までお問い合わせください。